

VII 現職教育計画

平成30年度 岩出小学校 現職教育について

1. 研究主題

図書を活用した効果的な学習のすすめ方

～主体的・対話的で深い学びを実現するために～

2. 主題設定の理由

本校の児童の実態として、各種学力テストの分析から、基礎問題よりも活用問題に弱い傾向がある。自分の考えをまとめたり、文章の中から必要な部分を読み取ったりする問題では、見ただけで抵抗感をもち、問題に取り組む前からあきらめてしまう児童も見られた。

そこで、平成28年度（1年次）から研究主題を「図書を使った効果的な調べ学習のすすめ方」とし、総合的な学習の時間を中心に調べ学習に取り組むことで思考力の育成を目指すこととした。最初に環境整備として、図書館司書、岩出市立図書館、県立図書館と連携し、子どもたちの多様なニーズに応えられるようより多くの図書を準備した。また、単元構想の中で特に課題設定の場면을重視し、児童が意欲的に活動できるよう工夫した。そうすることで子どもたちは、自ら見つけた課題を解決するため、図書を中心に情報を収集、それを整理・分析しまとめ、また新たな課題を見つけていくというスパイラル型の学習活動を通し、主体的に学ぶ姿が見られるようになってきた。反面、図書資料の中から自分に必要な情報を読みとり取捨選択すること（高学年では物事を多面的に捉えること）、授業の中で考えを焦点化して深める場面の設定について課題が見られた。続く平成29年度（2年次）では前年度の課題から、児童の思考を思考ツールを使用し、関連づけたり、多面的に見たりすることで自分の考えを深めさせようと取り組んだ。

これらの研究から、今年度（3年次）は研究テーマを「図書を使った効果的な学習のすすめ方」とし、国語科（学び方体系表：H29作成）を中心に各教科で図書を活用した学習に取り組みたい。情報収集の基礎的なスキルと、自分にとって必要な情報を取り出す力を身に付けさせ、取り出した情報をまとめたり発信したりする言語活動を通し、児童の思考力を育成したい。

3. 研究仮説

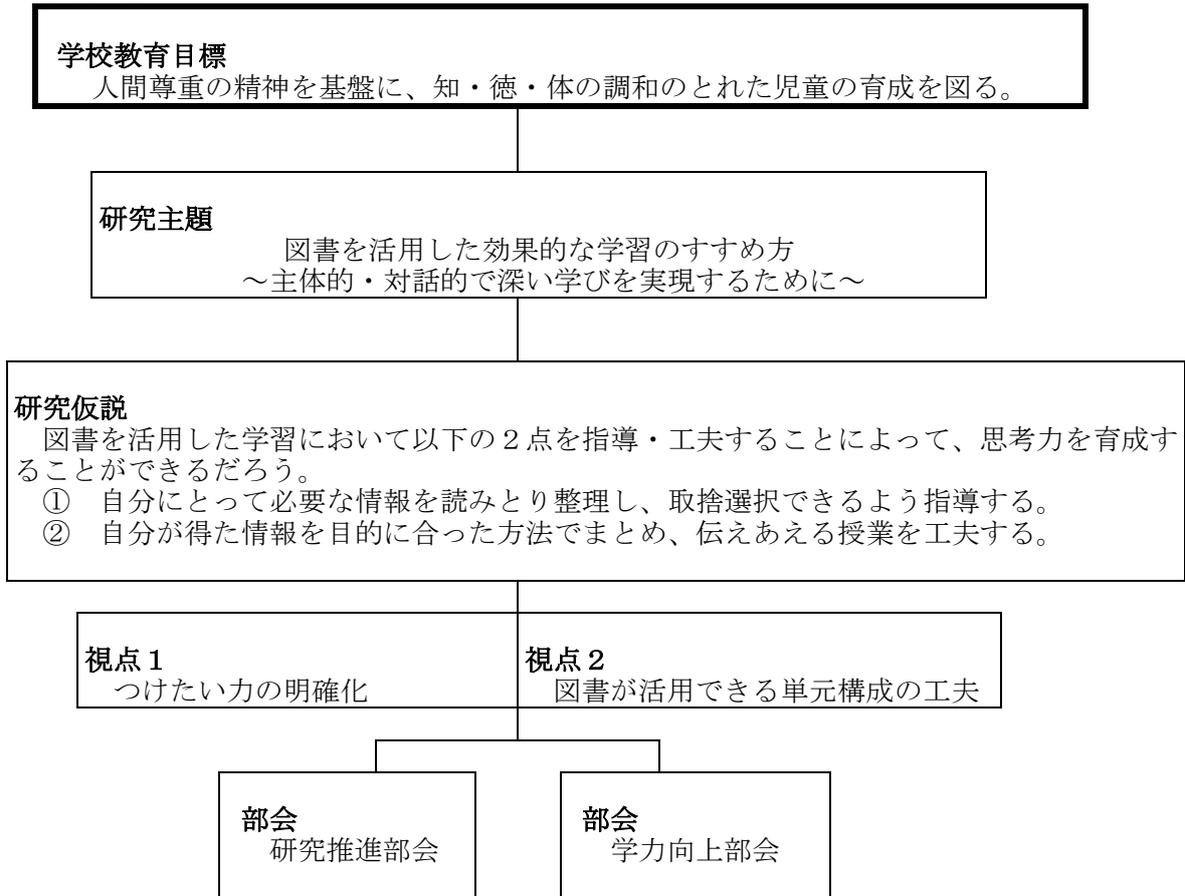
図書を活用した学習において、以下の2点を指導・工夫することによって、思考力を育成することができるだろう。

- ① 自分にとって必要な情報を読み取り整理し、取捨選択できるよう指導する。
- ② 自分が得た情報を目的に合った方法でまとめ、伝え合える授業を工夫する。

4. 研究の視点

- | | |
|-----|-----------------|
| 視点1 | 付きたい力の明確化 |
| 視点2 | 図書が活用できる単元構成の工夫 |

5. 研究組織



※部会について

研究推進部会

研究授業・公開授業に関する取り組み

学力向上部会

- ・「漢字博士試験」実施にむけた取り組み方の工夫
- ・家庭学習の充実、自主学習の掲示
- ・学力テストの分析

※研究授業について

- 各ブロック（低・中・高）1授業を行う。
- 事前に模擬授業を行う。
- 研究協議は視点を中心に行う。

※公開授業について

- 各ブロック（低・中・高）1授業を行う。
- （録画し、放課後全員で視聴後、協議する）

6. 年間計画

時期	1 学期	2 学期	3 学期
内容	現職教育計画の作成 研究授業・公開授業 エビペン、AED等講習 学力テスト分析・対策 夏期研修	研究授業・公開授業 伝達講習 学力テスト分析・対策	研究授業・公開授業 年度末まとめ

7. その他の取り組み

- 授業の決まりに関して全体で統一
- 学級会活動の充実
- 朝、放課後学習について
 - ・朝学習・・・8時20分～40分の間で10分程度
 - ・放課後学習・・・終わりの会終了後、15分程度

	月	火	水	木	金
朝	朝の会 漢字の博士プリント	読書タイム 朝の会	朝の運動 朝の会	朝の会 国語基礎 視写 ローマ字 カタカナ など	朝の会 漢字の博士プリント
放 課 後	終わりの会 スピーチ	終わりの会 スピーチ (クラブ、委員会の時 は無理ないように)	終わりの会 スピーチ	終わりの会 学力補充 (算数)	終わりの会 学力補充 (算数)

8. 年度末研究評価の視点

- ・主題、副主題は学校の実態に即し適切であるか。
- ・視点は仮説を検証する手立てとなり授業改善につながるものとなっていたか。
- ・授業研究により、子どもの変容が見られたか。

